

---

# クトとルウ

斉木こころ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クトとルウ

### 【Nコード】

N1003BA

### 【作者名】

斉木こころ

### 【あらすじ】

ちびクトウルフ（邪神さん）と暮らす女子<sup>ルウ</sup>高生の毎日。擬人化ではございません。うぞうぞぬるぬる、触腕、鉤爪があります。翼はまだ生えていません。この話の終着駅は、まだ見えておりません。

## 朝ご飯

狭い居間の小さなちゃぶ台。そこに用意されていた朝ご飯をもりもりと食べながら、朝のワイドショーにチャンネルを切り替える。

「えーですね、今日のトピックの目玉はですね、これですね。今年ずーっと続いてる大学教授殺害・失踪事件ですね。あくまで私の意見ですがね、これは深きものも達が関わっていると見ても間違いは無いですね」

「まーた深きものもつすかあ」

「怖いっすねえ」とぼやきながら、それでもご飯を食べるのをやめない。邪神を巡る騒動は、生まれた頃から既にある。もう日常なのだ。無関係なものには、もはや邪神騒動はエンターテイメントとなりつつある。もう飽きた話題でもあるため、他の番組を見ようか迷っている、隣から服の裾を引かれた。

「何すか？」と隣に座る同居人を振り向く。背丈が三歳児程度しかない同居人は、顔の下に生えた触腕をうごごさせ、抱っこしろと言わんばかりに鉤爪のある腕を広げていた。

「はいはい、頭こつつんこつすね。邪神さんなかなおつきくならないっすねー」

子供扱いはこの同居人こと邪神さんには禁句である。抱き上げて視線を合わせた瞬間、渾身のヘッドバンドを頂戴してしまった。

タコのような頭のくせに、この“ミス・石頭”の称号を持つ自分にヘッドバンドとは、まったくいい度胸である。出会った日に私の頭がどれだけ石頭かを知ったはずなのに、まったくおバカさんだ。

『ぐづう……、きさまの頭は、かたすぎだ!』  
「いやあ、それほどでもないっすよお」

照れていたら、邪神さんの触腕が頬を直撃した。ぺっちーんと派手に欠けた音をたてて直撃した。おでこでおでこをこっつんこしているこのゼロ距離でも、邪神さんの腕力が弱いため痛みは無い。

「もー、レディに手えあげちゃダメって、何回言わすんすかあ」  
『きさまがわるいのだ!』

「わからない子にはお仕置きも仕方ないっすね!」

今度は、私から邪神さんへのヘッドバッド。ふにゃんふにゃんのこの頭は手応えを感じないけれど、邪神さんはしっかり痛みを感じているらしい。不思議である。

おでこが離れると、邪神さんの声は聞こえない。邪神さんは、おでこでおでこを合わせないと会話ができないのである。これも不思議だ。

再度おでこを合わせると、するする邪神さんの声が流れ込んできた。

『ええい、せつかく、せつかくわれがちゆうこくしてやろうと思っただのに、もう知らぬ! かってにしろ!』

「あーんごめんなさい! こんくらいで拗ねないでほしいっす」

『ふん、もう知らぬ!』

「忠告って何すか? 今日の晩ご飯はすき焼きにするって母さん言っってたんすか? だから早く帰って来いって、」

突然、背後からスパーツと頭を叩かれた。もちろん叩いたのは邪神さんではない。母さんである。

「いつまでばけばけテレビ見てんの! 遅刻だからってのんびりし

ないで、さつさと学校行きなさい！」

「はあああい」

「返事は短くッ！」

「はいっす！」

母さんに叱られてしまつては仕方ない。邪神さんを下ろして、改めてご飯をかき込んだ。邪神さんが「それ見たことか」とふんぞり返っていることから、邪神さんがしようとした忠告は、母さんのことだったようだ。それならそれで、身振り手振りで知らせてくれればよかつたものを。

むしゃむしゃと塩鮭をかじりながら、横目で邪神さんを睨んでおいた。

## 朝ご飯（後書き）

ちびクトゥルフこと邪神さんと、愛称ルウの女子高生。まずは、朝の風景でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1003ba/>

---

クトとルウ

2012年1月2日10時50分発行